【様式】

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名(　宇治山田商業高校　)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		校訓「健康明朗　自律協同　誠実勤勉」のもと、 自立を促し、変化する実社会で活躍できる基礎を育む学校
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	○自他を尊重し、規範意識を大切にする人間性豊かな生徒 ○自己実現に向けて主体的・創造的・積極的に挑戦し、活力ある姿勢や態度を有する生徒 ○探究的な学習、地域や国際交流活動等を通して「企画力」「調整力」「実践力」「突破力」「地域への貢献力」等を備えている生徒
	ありたい教職員の姿	○高いコンプライアンス意識を有し、信頼ある教育活動を実践する教職員 ○目指す学校像の実現に向け、生徒の多様な力を伸長するため、絶えざる自己改革に努力を惜しまない教職員 ○生徒数が減少する南勢地域において、本校の魅力の更なる特色化に向け、情報共有と相互支援を行う教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	〈生徒〉 自己実現できる進路指導(就職・進学) 学習、部活動ともに充実した学校生活 〈保護者〉 安全・安心な学校生活と子どもの進路希望(就職・進学)実現 部活動や学校行事をはじめとした特別活動の充実ときめ細やかな生徒指導 〈地域〉 地域社会に貢献、中核として活躍できる生徒の育成と本校の魅力の更なる向上	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	〈家庭〉 進路状況など学校情報の提供 〈中学校〉 生徒の志望に係わる学校情報の提供 〈地域社会〉 地域活性化に向けた活動や地元での就職の推進	〈家庭〉 協働できる体制の確立 〈中学校〉 体験入学や学校行事等を通じた交流の推進、適正に応じた進路指導 〈地域社会〉 地元事業所からの適切な情報提供
(3)前年度の学校関係者評価など	・新学習指導要領がすべての学年に施行される年度となり、その趣旨を適正に踏まえた教育の実現に取組む必要がある。 ・商業の学びの充実について取組んできた「探究プログラム」の充実に引き続き取り組んでいく。 ・部活動について、クラス減を見据えながら統廃合等についても検討し、進める必要がある。	

(4)現状と課題	教育活動	○　文武両道の理念のもと、ＩＣＴ機器等を活用した多様な教育活動を積極的に推進し、生徒が自ら課題を発見し解決方法を模索する「探究的な学び」の活動を重視しながら、充実した高校生活の実現に努めている。 ○　引き続き地域と連携した教育活動や国際交流活動に継続的に取り組み、ＳＤＧｓの視点を持った地域リーダーの育成に向けた教育活動を計画的に実施する必要がある。
	学校運営等	○　３学科の魅力について再確認するとともに、地域唯一の商業高校として本校の強みや育みたい生徒像を内外に発信し、開かれた学校づくりを実現するため、広報活動の充実を図った。今後も継続して本校の魅力発信に努める必要がある。 ○　地域に根差した「信頼される学校」として、引き続き、教職員がコンプライアンス意識を高め、生徒・保護者等関係者の声に耳を傾けながら、風通しの良い学校に向けて取り組む必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム･ポリシー】	○　生徒の自主性、主体性、創造性を育み、積極的に自己を高めていくため、ＩＣＴ機器の効果的な活用による学習活動の工夫や学校行事、部活動の振興等を通じ、人間性豊かで活力に満ちた学校生活の実現に努める。 ○　地域との連携を通じた教育活動を充実させ、生徒の課題解決力や探究力、自己表現力の向上や、キャリア教育の更なる充実を図るとともに、生徒の希望・適性に応じた進路実現につなげ、地域社会の発展に貢献できる自立した人材を輩出する商業高校を目指す。
学校運営等	○　絶えざる自己変革（「学校力」・「教師力」・「生徒の人間力」の向上）を図るため、情報共有に努め、全教職員の授業公開実施などを通じ授業改善に取組む。 ○　多様な学習成果の評価手法について組織的に研究を深め、授業改善に取組む。 ○　ＩＣＴを活用した教育を推進し効果的な教育活動を実現するとともに、総勤務時間の削減に努める。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション･ポリシー】	○　学習意欲が高く、主体的に課題を発見、解決学習に取組むことができる生徒 ○　規範意識や基本的生活習慣とともに社会性が身についている生徒 ○　スポーツ・文化活動やボランティア活動、生徒会活動などに積極的に取組める生徒 ○　学科の特性を生かして、大学進学や就職活動等の進路実現に取組める生徒

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組　「◎」：最重点取組

項目	取組内容･指標	結果	備考
教育課程	○　授業時間の確保と授業の質的向上に努め、適正な行事の時間を確保しながら、生徒の学力向上に努め、生徒・保護者の満足度を高める。 【活動指標】 ・各分掌、各学年等の年間計画を総合的に実施しながら、随時改善に努める。 【成果指標】 ・　生徒アンケート等による成果と課題の検証　　年２回	・授業時数を確保しながら学校行事を実施 ・実施なし	※

学習指導	○　授業内容の充実を図り、生徒の学習意欲や学力の向上、進路実現に努める。 ○　各教科の学習到達目標の作成や評価手法の充実・改善とともに評価規準の適性化を図り、指導と評価の一体化に取組む。 ○　生徒の学習・生活状況の実態を把握するための調査を実施し、生徒理解に生かす。 ○　オンライン教育や、授業におけるＩＣＴ機器の利活用による効果的な学習指導に努める。 ○　課題発見・探究型の授業を通じて、主体的に学びに向かう力を育成する。 【活動指標】 ・　引き続きオンライン教育を推進し、「学びの継続」に取り組む ・　日本商工会議所簿記検定２級、基本情報処理試験に挑戦する生徒を増やす。 ・　英語セミナーを実施し、英語運用能力の向上を図り、英語の上級検定取得に挑戦する。 ・　情報セミナーの見直し、充実を図り、国家資格合格への支援に取組む。 ・　個々の生徒の希望と学びの進度に合わせた補習授業を適宜実施し、幅広い学力層に対応する。 【成果指標】 ・　授業公開による授業力向上に取組む　　全教員１回以上 （各期間中に、他教科教員の授業を１回以上参観し、意見交換を行う。） ・　「日商簿記検定２級」合格率　　45%以上 ・　「情報処理国家資格」合格　　25 名以上 ・　CEFR A2 中程度～B1 程度の検定取得　　30 名以上 （「実用英検２級」及び「実用英検準１級」、「TOEIC L&R 600 点以上」、「GTEC（アセスメント版含む）930 点以上」等　）	・各教科で目標と評価規準・評価方法を明確にしてシラバスに記載。 ・年度末に「学校満足度アンケート」を実施予定 ・ICT を活用した授業を全教科、全教員で実施。 ・遠隔授業の実施要項を作成。 ・２回実施 ・３４．５% ・１６名 ・５７名	※ ◎ ◎ ◎
キャリア教育	○　３年間の系統的なキャリア教育を通じて、職業観・勤労観、主体性、挑戦する心、コミュニケーション力等を育成する。 ○　個々の生徒の適性に応じた進路実現に努める。 【活動指標】 ・　定期的に「進路だより」を発行し、学校 HP で公開する。 ・　年間８回以上の進路講話（1 年生２回、2 年生３回、3 年生３回）を体系的に実施する。 ・　図書館とも連携し全職員による小論文指導を実施する。 ・　１年次に企業見学（11 月）と地元企業説明会（２月）を実施する。 ・ ・　２年次にジョブシャドウイング・大学見学（11 月）を実施する。 ・　２～３年次にかけ、図書館とも連携し全職員による小論	 ・22 回発行 ・８回実施 ・実施 ・企業見学(12 月) ・地元企業説明会(2 月) 10 月実施 ・実施	※ ◎

	文指導を実施する。 ・　３年次に全職員による面接指導（夏期休業明け）を実施する。	・実施	
	【成果指標】 ・　国公立・難関私立大学延べ合格者数　10 名以上 ・　民間企業等就職内定率　100％	・18 名合格 ・100％	
	○　基本的生活習慣の確立と集団生活をとおして他者を尊重し協調する心や規範意識を醸成する。 ○　「いじめ」防止につとめ、安全安心な学校を実現する。 ○　文武両道を推進し、部活動の振興を図る。 ○　交通安全指導の徹底を図る。 ○　生徒会活動や山商祭などの学校行事等を充実し、生徒の自主性を高める。		
生徒指導	【活動指標】 ・　授業に向けて良い準備を整える習慣を身につけさせるために、授業開始前の着席指導を促す。 ・　全教職員による「身だしなみ指導」「挨拶運動」を充実する。 ・　交通安全に対する意識を高め、交通ルールの遵守に努めるよう指導する。 ・　ＳＮＳの適切な使い方等に関する教育に取組む。 ・　生徒会活動の活性化を図り、学校行事の創意工夫と実態に即した改善を行う。 ・　いじめの未然防止のためのアンケートによる実態把握やいじめの適切な認知と迅速かつ適切な対処を心掛ける。	・定期的に学年集会を実施 ・頭服指導 ・毎朝挨拶運動を実施 ・交通安全講話 ・SNS に関する講話 ・座談会 ・代議委員会 ・いじめ防止委員会 ・いじめ対策アドバイザーとの連携	※
	【成果指標】 ・　自転車事故件数　年間　０件 ・　生徒会による「挨拶運動」を実施　年間 20 回以上 ・　充実・改善に取組んだ生徒会活動　年間　２回 ・　学校生活アンケート　学期に１回以上 ・　いじめ対策アドバイザーとの連携　年５回以上	・年間 12 件 ・年間 25 回実施 ・年間５回 ・学期に１回 ・年４回予定	
安全・安心な学校づくり	○　自他を尊重し、命を大切にする態度を育成するため、あらゆる機会を通じて生命尊重の教育を推進する。 ○　スクールカウンセラーとの連携を図り、相談体制の更なる充実を目指す。 ○　環境整備の充実を図るため、ゴミの減量・分別と清掃指導の徹底に努める。 ○　全教職員の熱中症への対応力を高める。	・スクールカウンセラーとの連携は毎回のフィードバックを含めて円滑に行われている。 ・環境整備については継続的な安全点検と学年別美化強化週間を設けて実施。	◎
	【活動指標】 ・　学校教育活動全体を通じて「命を大切にする教育」を実施し、取組内容を充実する。 ・　教員の指導力向上を図るとともに生徒にとってより活用		

	しやすい教育相談体制を充実させる。 ・ 学校環境デーなどの取組みを通じて、環境美化、節電、ゴミ減量・削減に努める。 ・ 感染症予防に努め、生徒自身の健康管理意識を高めるとともに、手洗い、手指・器具消毒などを徹底する。	・手洗いの励行や教室の換気など感染症予防についてHRを通して継続的に実施。	
人権教育	【成果指標】 ・ 「命を大切にする教育」に係る講演会の実施　年１回 ・ 保健講話（熱中症講演会）の実施　年１回 ・ 高校生活セルフチェックにおいて「不安や辛さあるいは怒りなどを感じる」生徒の割合　昨年同時期より減	・人権講演会 ・５月に開催 ・本年度から学校生活アンケートにて調査実施。 １学期６名 ２学期０名	◎
	○ 差別やいじめを許さない学校づくりをめざし、日常からの取組を推進する。 ○ 「三重県人権教育基本方針」に基づいた人権教育カリキュラムを見直すとともに、実効あるものとするための総合的・系統的な推進体制の構築に努める。 ○ 教職員の人権感覚を高め、生徒一人ひとりの人格を尊重した生徒支援に努める。 【活動指標】 ・ 入学から卒業まで、３年間を通した体系的な学習となるよう計画立案する。 【成果指標】 ・ 人権教育カリキュラムに基づいた取組を、全学年で各学期１回以上実施する。	・人権教育推進計画及び人権教育カリキュラムの策定を行い、それに沿った人権学習を1･2学年は各学期に１回、３学年は１学期･２学期に各１回実施。生徒向け人権講演会を７月に行った。 ・県教育委員会人権教育課と連携して「人権感覚あふれる学校づくり事業」の公開授業を１学年で行った。授業ではSNSを使ったコミュニケーションについて生徒が考え、グループで討議し、事後協議では人権学習の授業づくりについて討議を行った。 ・教職員の人権感覚を高めるため１学期及び２学期に校内人権研修を行った。	
改善課題			
昨年に引き続き、登下校時の自転車での事故が無くならない状況がある。あらためて交通安全に関する注意喚起等を行い、ヘルメット着用の推進等、交通事故防止に努めていきたい。			

生徒一人ひとりを丁寧に見守るため、引き続き、各学期当初に担任による個別面談を実施し、そこで得られた生徒状況については、必要に応じて全職員で情報共有し、気になる生徒については学校全体で見守る体制をとりたい。特に、入学当初の生活環境の変化が、ストレスになることの多い１年生については、丁寧な初期指導とともに、より一層の見守りを行っていく。

人権教育推進についても、年間計画等を点検し、より良いものに改善していきたい。

(2)学校運営等

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組　「◎」：最重点取組

項目	取組内容･指標	結果	備考
組織運営	○　信頼される学校であるために、教職員の規範意識および服務規律の確立に努める。 ○　危機管理意識の高揚及び防災教育の推進に努める。 ○　法令・法規を遵守し、過重労働の削減に努める。 【活動指標】 ・　学校信頼向上委員会を定期的に開催するとともに、コンプライアンス研修等を通じて、学校全体で組織的に学校信頼向上に取組む。 ・「校内ネットワーク」の積極的な活用により、効率的な教職員間の「情報の共有」に努める。 ・　定時退校日、部活動休養日等を設定して時間外労働を削減する。 ・　議題説明時間の短縮により、会議時間の効率化を図る。 ・　機械警備を適切に運用するため、戸締り、窓閉め、消灯などを徹底する。 ・　公文書管理規程に基づき適切な文書管理を行う。 【成果指標】 ・　年360時間を超える時間外労働者数　0人 　月45時間を超える時間外労働者延べ人数　0人 ・　１人当たりの年間休暇取得日数　年１日増加 ・　定時退校日（月２回）できた職員の割合　90%以上 ・　部活動休養日（週１回）できた部活の割合　95%以上 ・　放課後60分以内に終了した会議の割合　85%以上 ・　校舎施錠不備（委託業者施錠）回数　年３回以内	・運営委員会の際に学校信頼向上委員会を開催 ・コンプライアンスミーティングを３回実施。 ・チームスを活用して情報の共有に努めた ・５人 ・３５人 ・１５．６ （昨年より＋１．７） ・９４．６ ・１００% ・８８% ・２回	※
情報提供	・　公文書の保存状況確認回数　年２回 ・　セルフチェックシートを活用した振り返り　年３回 ○　開かれた学校づくりを実現するため、特色・魅力ある教育の情報発信（広報活動）の充実を図る。 【活動指標】 ・　公開授業、公開講座を開催する。 ・　報道機関等への資料提供、地域・中学校への学校Ｗｅｂページ等を活用した情報発信に努め、受検生の増加を図る。 【成果指標】	・２回 ・３回	※

	・ 公開授業の実施　年２回以上 ・ 学校Ｗｅｂページ等の充実・更新　年140回以上 ・ 新聞記事等への掲載回数　年20回以上 ・ 公開授業・公開講座参加者アンケート満足度　85%以上	・３回実施 ・１３０回 ・記事は２１回 部活結果は多数 ９０%以上	

改善課題
・コンプライアンスミーティングやオフサイトミーティングを通して、職員間のコミュニュケーションがはかれ、同僚性を高めることにつながった。 ・時間外労働の数値が高い職員が固定化されつつあるので、業務の割り振り等、次年度に向け、対策をとる必要がある。

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	・探究的な学習については、地域との連携をさらに推し進め、積極的に取り組んでいいって欲しい。 ・交通事故防止に向けた啓発活動や、ヘルメット着用の推進の取り組みを引き続き行っていく必要がある。 ・進学、就職において概ね進路実現ができている。次年度も引き続き生徒一人ひとりに応じた進路指導に取り組んで欲しい。

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	・引き続き、商業科教員を中心に、県外の先進校視察をはじめとした探究プログラムの充実に向けた教職員研修を実施し、3年間の教育活動を通じた探究的な学びの効果的な推進に取り組む。 ・登下校における自転車通学時でのヘルメット着用率向上のために、啓発活動の継続的な実施とともに、交通マナー向上を含めた交通安全教育を計画的に実施する。 ・生徒の主体性をより高めるため、生徒自身が判断、行動できる場面を増やす。
学校運営についての改善策	・部活動とともに本校の教育内容自体の内容を積極的に発信し、地域や中学生にとって魅力的で親しみやすく、進学したい学校の実現に努める。 ・本校の目指す方向性について、教職員内での議論を深め、教育活動のより一層の充実とそれを支える教職員の資質向上をはかる。 ・校務運営について、これまで以上に組織体系を整理し、業務の精選と効率化を促進する。